

東京都子供・若者計画（第2期）進捗状況について

1 子供・若者計画の改定(令和2年4月)後に見られた特徴的な課題

No.	課題の例	今後の方向性の例
1	<p>【コロナ禍への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を施した事業の実施 ・感染症対策の周知 ・事業中止の回避 ・イベント参加者数、利用者数の減少 ・コロナ禍前の水準への実績回復 ・社会環境、家庭環境、人間関係の変化への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染予防策の実施 ・オンラインによる相談、研修、成果発表会等の実施 ・非接触型ツール（スマートフォン・タブレット）の活用 ・オンライン実習プログラムの開発 ・研修等を通じた相談対応力の向上、国や都の情報共有
2	<p>【デジタル化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化、利用者の減少 ・コロナ禍への対応 ・社会におけるデジタル化の進展 ・制度変更への対応、速やかな支援の実施 ・社会的自立に課題を抱える若者等への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる相談、研修、成果発表会等の実施（再掲） ・資料や教材のデジタル化、アプリ開発 ・オンライン申請・審査のあり方の検討、申請手続の簡素化 ・オンライン動画と対面指導を組み合わせた講座の実施を検討 ・デジタル専門人材の育成、配置支援 <p>※相談や交流会などオフラインのニーズが高い取組も存在</p>

東京都子供・若者計画（第2期）進捗状況について

2 従来から様々な事業において見られた課題の例

No.	課題の例	今後の方向性の例
1	【事業】 事業効果の向上 ・利用者のニーズ、区市町村の状況等を踏まえた取組の実施	・利用者の声を踏まえ、ウェブサイト掲載内容の充実を図り、事業認知度を向上 ・区市町村との情報交換等を踏まえ、指導者向けマニュアルを作成
2	【人材】 人材育成、専門性強化 ・年々複雑化・多様化する支援ニーズへの対応 ・子育てやものづくり、外国語など専門性の高い支援に携わる人材の育成・確保	・国や区市町村等と連携のもと研修を実施し、職員・スタッフ等の専門性を向上 ・熟練技術者など外部人材による実践的な教育プログラムの開発 ・好支援事例の共有
3	【相談窓口】 相談しやすい環境確保、相談対応の向上 ・多様化・複雑化する相談内容や利用者ニーズへの対応 ・外国籍の対象者への対応	・外部講師による研修を通じ、相談員の資質を向上 ・専門家チームによる相談員への助言 ・夜間時間帯の回線拡充により応答率を向上 ・外国語による相談対応を引き続き実施
4	【広報】 効果的な広報による事業認知度向上 ・ポスターやホームページ、SNS等による周知・広報の効果向上	・国など関係機関と連携した周知・広報 ・特定のターゲットに絞った情報発信、ウェブ広告、リーフレット配布 ・実態調査を踏まえた相談窓口の周知、紙媒体の配架場所の見直し ・チャットボット構築により必要とする情報へのアクセシビリティを強化
5	【区市町村】 地域における支援体制整備の促進 ・区市町村が地域で行う支援体制整備の取組への働きかけ・サポート	・シンポジウムの開催、専門人材の派遣、助言等を通じ、区市町村の取組を支援 ・情報連絡会の開催等を通じ、取組方針や手法、好事例を共有 ・区市町村のニーズを踏まえた補助の着実な実施
6	【連携】 ネットワーク構築や情報共有体制の強化 ・関係機関同士の連携、情報共有によるスムーズな支援体制の構築	・地域における役割分担とネットワークの構築 ・研修会や見学会など地域の支援者が情報交換を行う機会を確保 ・関係機関が参加する協議会の開催を通じた情報共有

* 上記以外の主な課題としては、「法令・制度改正への対応」、「計画等に基づく取組の着実な実施」など